

大使挨拶(2022年7月)



当館ホームページに来訪いただき有り難うございます。

当地では本格的な夏が到来し、新型コロナ・ウィルス感染症の状況も落ち着いてきていることもあり、サラエボ市内には国内外からの観光客であふれています。

他方で、国際情勢は予断を許さない緊迫した状況が続いていますが、その中で6月9日、国連において日本が国連安全保障理事会非常任理事国に選出されました。明年1月より2年間の任期をつとめることとなりますが、1956年の国連加盟以来12回目の安保理入りであり、国連加盟国中で最多となります。我が国は、今後更に国際安全保障の分野で積極的な貢献を行っていく所存です。

当館では、これまでボスニア・ヘルツェゴビナに対する様々な経済協力事業を継続実施してきていますが、最近では現在進行中の技術協力プロジェクト「サラエボ県公共交通管理、運営能力強化計画策定プロジェクト」の中間報告会が開催されました。日本からの専門家と当国専門家との共同チームによって大きな成果が上げられてきていることを嬉しく思います。同プロジェクトにより市民の日常生活が大きく改善されることを切に希望しています。

更に、草の根・人間安全保障無償資金協力プロジェクトの引き渡し式出席のため、幾つかの地方都市を訪問した他、ラフティング世界選手権大会参加の日本選手団応援のためにバニャルカ市も訪問しました。ラフティングのメッカであるブルバス川では目を見張るような美しい自然に触れ、当国の魅力を堪能しました。このほか空手選手権、柔道選手権では日本の武道が当地でこれほどまでに普及していることに改めて驚かされました。

悲しい出来事では、5月に日本の男子サッカーナショナルチームを率いたオシム監督が逝去され、日本サッカー協会(JFA)代表とともに追悼式、葬儀に参列しました。同監督の功績は多くの両国ファンの記憶に残るものと思います。ご冥福をお祈りいた

します。

また東サラエボ高校センター、サラエボ大学政治学部、同大学哲学部日本語講座をそれぞれ訪問する機会があり、私より日本大使館の活動、日本の外交政策等に関する講演を実施し、参加した学生との間で活発な意見交換を行いました。こうした機会を今後はバニャルカ、モスタルそして他の都市でももうけることができれば素晴らしいと感じているところです。

引き続き皆様の御協力、御支援を宜しくお願い致します。

2022年7月1日
在ボスニア・ヘルツェゴビナ日本国大使
伊藤 眞

